

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 あじさい		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	令和5年6月30日	評価結果市町村受理日	令和5年8月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし、信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170501795-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170501795-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年7月31日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りの地下鉄駅やバス停から近い住宅街の一角に位置している。地域とは開設時より良好な関係にあり、隣近所からは常に温かい言葉かけや自作野菜の差し入れがあり、コロナ禍の完全収束に向け以前のような交流の再開を検討している。職員は食の重要性を理解し、ユニットごとに利用者の好みや栄養バランスに配慮した食事作りが行われている。誕生日は要望に沿い、季節に因んだ特別食の用意、また、出前で目先を変えるなど、食の楽しみに繋げている。外出は敷地内や周辺の桜見物、隣近所の花や樹木を眺めながらの散歩、時にはドライブで大通公園の花壇や時計台、道庁を車窓から眺め、中島公園を散策、動物園でテレビに映っていたアザラシの子どもを見るなど五感を刺激し、気分が転換できる場面作りに努めている。今後は、自由に家族と面会や外出の実現を計画している。管理者始め職員は、適切なケアへの理解を再認識し、利用者や関係者の再構築作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、改めて確認したり、普段の実践につなげられているかを振り返る機会を作っている。新しい職員だけでなく、長年勤務している職員にとっても振り返る機会は貴重な時間と捉えられている。	法人理念を事業所理念とし、さらにユニットごとに目標を掲げ実践に努めている。都度理念や目標を振り返っているが、コロナ禍など環境上の事もあり、十分な実践に至らず今後の課題としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事などに参加することはできなかったが、散歩や日向ぼっこの際に挨拶を交わしたり、活動を見守って頂けていることを町内の方から話しを伺っている。	地域住民とは開設以来良好な関係にあり、近所から手作り野菜が届いたり、事業所も町内会の資源物回収に協力をしている。感染症状況を見据えながら、コロナ禍以前の地域交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまでは地域の方に対して発信する機会が減ってしまっていたが、最近になって徐々に増えて来ている。主に家族に対して、伝えることが多かった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族から意見を伺い、サービス向上につながる意見に対し、直ぐに取り組めることについてはスピード感を持って、実施していくよう努めている。	会議は職員のみで開催している。避難訓練などの活動状況やコロナ禍関連の取り組み、事故報告の内容説明等をまとめ、議事録として関係者に届けている。推進委員や家族とは電話で意見交換ができるよう努めている。	前回の課題であった議事録の内容が報告のみとなっており、利用者状況(レク活動など)や推進委員との意見交換など記載の充実を目標に掲げていたが、達成度が十分ではなく継続しての取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が窓口となり、事故報告や生活保護関係、オムツサービスの利用等で市・区役所の担当者と関わっている。また、市より職員の待遇に対する指導もあり管理者より報告を受け改善に努めている。	行政との関わりは管理者が担い、運営の質向上に繋げている。今年に入り、事故としての事案が発生し、市の関係部署より適正化に向けての指導があり、課題解決に向けた取り組みが行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向け、ユニット会議などを利用して、具体的な項目を1項目ずつ取り上げ、意見を交わし、不適切なケアを行っていないか振り返りする機会となっている。	ユニット会議を活用し、2か月ごとに適正化委員会と研修会を開催している。研修内容は職員の意見を取り上げており、より正しい理解が得られるよう努めている。適切な待遇については繰り返し学ぶ機会があり、共通認識に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は多かったが、身体的虐待が発生してしまった。札幌市の指導の下、同じ過ちが繰り返されないよう改善に向けて、事業所全体で真摯に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度の必要性について区役所へ相談に行くことも、しばしばあった。当ユニットで後見人制度を利用している方が実際いないため、理解が乏しく学ぶ機会を増やす必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、十分な時間を割き、傾聴することで、説明を行った際に理解・納得を得ることができている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に管理者が家族から意見を伺い、利用者は職員へ要望を表すことが多い。運営に反映されるべき意見に対しては速やかに実施されている。	家族には毎月、ユニットごとの活動状況や個別に写真とコメントを載せた事業所便りを送付している。面会時や電話等で意見を聞くことができ、要望であったカメラが事業所内に設置されている。利用者からの要望には出来る限り対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があった時には、速やかに協議し直ぐに対応するよう努めている。時間を要する場合においても反映できるよう少しずつだが改善を重ねている。	職員は、業務上や会議を介して意見や提案を管理者に伝えている。法人職員による個人面談でも要望等を述べており、働きやすい環境整備に努めている。カメラの設置は、職員からも要望として上がっていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備は職員にとって、非常に重要なことと捉え、要望が聞かれた時には速やかに対応、改善できるよう努めて、職員のモチベーションにつながるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やスキルを見極め、その職員に適した法人が行う研修に参加してもらっている。日々、新人職員に対してアドバイスをを行いながら業務を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は最近になってだが、他事業所の運営推進会議等に参加する機会が増えつつある。これまでは主に電話で連絡を取り合うことが多かった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、本人の心配や不安感は計り知れない程、大きい物であると想像することで、職員は安心感に繋がるよう、言葉かけを多く持つよう、気に掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも十分な時間を作り、不安なことや困っていることを傾聴することで、不安の軽減には繋がっていると思われると同時に関係性の構築も図られていると感じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、様々な困りごとを抱えて来られる方は多い。優先順位を決めて行うが、柔軟に対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことを利用者をお願いすることで、ホームの生活の中で役割となり、職員も利用者に対し、自然に頼っているような場面がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が思うようにできなかったので、受診の時間を利用して、長い時間を家族と過ごす方法も取ることがあった。家族も本人も治療を受けながらも、ゆっくりと共に過ごすことができた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に合うことが難しい状態であったため、主に電話やタブレットを利用して会いたい人と交流が持てるように努めた。時には手紙を書くことも支援した。	コロナ禍により自由な外出や面会が自粛下にありながらも、ドライブを企画し車窓から馴染みの時計台や道庁、大通公園の花壇など景色を楽しみ、時には中島公園を散策している。面会も感染状況に応じてリモートや対面等を行い、利用者や家族の関係性を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格を見極め、気の合う方が近くで過ごせるような座席配置を行っている。少ない人数の中、困っている方がいれば、気に掛けて声を掛けている場面が、しばしば見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が窓口となり、サービスが終了してからも、必要に応じて電話連絡や相談を受けるなど対応している。また、いつでも電話や来設できる環境作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や関わりの機会を持ち、その中で希望や意向などをさりげなく伺い把握に努めている。困難な方に対しては本人の様子や反応などを観察したり、家族にも話を伺い把握に努めている。	人生の最終章を何処で迎えたいかを含め、常に利用者の意向汲み取りを行っている。職員は利用者が満足できるよう、時にはケアプランに反映するなど意向や要望の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前生活していた所から情報を頂いたり入居時に管理者が本人や家族より聞き取っている。入居後も関わりながらこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調などによっても過ごし方は変わってくるが、本人の様子を見ながら素早く現状を把握し臨機応変に対応ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日々の関わりの中で希望や困っていることなどを伺ったり、課題となることを探っている。家族や職員全員からも意見を聞き取った上で、現状に合った介護計画を作成している。	介護記録簿には、ケアプランのチェック欄と職員がその日最優先したい支援目標の欄を設定している。ケアプランの更新時や体調変化時は、利用者や家族の意向、医療従事者の意見を踏まえ、職員間で協議して現状に沿った目標を定めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の様子や変化、言葉、ケアの実施状況等を記載し、職員間で情報共有やケアの見直しに活用している。記録の内容が薄い、読んだ時に様子が分からないなど記録の記載についての課題はある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面会ができない状況であったが、オンラインでの面会やビデオ通話のサービスが導入されたことで、画面越しであっても本人や家族がお互いの様子を確認し合える場となっていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により、様々な制限があったことで地域資源を上手く活用することができなかった。今後はコロナ緩和に伴い、少しずつ地域資源を活用した取り組みができるよう考えていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、訪問診療を受けている。クリニックとの関係は良好であり、気軽に相談したり、アドバイスを受けることができている。本人や家族の希望を優先し、他の受診などもスムーズに対応できている。	殆どの利用者は、協力医による定期的な往診を受けている。馴染みの主治医や他科の外来受診は家族対応を基本とし、情報は関係者と共有している。さらに週1回、看護師の来訪があり、利用者の健康管理が整備されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を受けている。訪問看護との関係は良好であり、看護師との関わりは利用者の安心感にも繋がっている。気軽に相談したり、適切なアドバイスを受け、日々のケアに活かしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院側に入院に至るまでの経緯やホームでの生活状況等の情報を伝えている。主に管理者は入院中も病院側とこまめに連絡を取り合い、情報交換や早期退院に向けての相談など取り組んでいる。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に管理者から説明はしているが、本人の状況に応じて随時、話し合いの場が設けられている。利用者に対しては日頃の会話から希望を汲み取ったり、他者の最期に立ち会う場面などで意向を確認している。	医療連携体制や重度化に関する指針は、入居時に説明し、同意を得ている。利用者に最終生活拠点の意向を随時聞き取っている。状態悪化時は、関係者と情報を共有し、職員は、意向に沿った最期の支援に臨んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の体調を見ながら急変に備え、早めに受診を検討するなど、事前にできることはないか考えながら取り組んでいる。緊急時は他ユニットと協力しながら対応している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍であった為、ホーム全体や地域の方が参加する訓練は行えていなかったが、定期的にユニットごとで自主避難訓練を行っている。動きはもちろん、避難場所や備蓄品などの確認もしている。	地震や火災発生時の対応マニュアルを整備し、避難訓練は年2回、ユニットごとに実施している。今年度は、ユニット合同で地震後の火災避難訓練の実施、自然災害や排泄時などケア場面での対処、火災時における1次的避難場所の確認、地域との協力体制の再構築等を踏まえて行うことを計画している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話をする際はイニシャルを使用したり、言葉かけや対応する際も他者から注目されないよう、さりげなく心をかけ取り組んでいる。	法人全体で利用者への寄り添いは、尊厳ある支援を基本とし、実践に努めている。ケア場面において何気ない言葉掛けが適切であるかを確認できる機会として接遇研修の開催を検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で思いや希望を引き出せるよう努めている。自己決定が難しい方にもチラシなどを見ながら選んでもらい、誕生日のメニューに取り入れる等している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その中でも個々のペースを大切にしている。利用者の体調や希望などに合わせて臨機応変に対応しており、各利用者の暮らしを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者が多く、服の好みやこだわり等あるため、日常や行事の際に取り入れられるよう働きかけている。百寿のお祝い時にはちゃんちゃんこを着てもらった。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事やおやつ時、行事の際に利用者の好む物や希望があった物を提供している。コロナ緩和により、食後の後片づけだけではなく、調理も促し少しずつ参加してもらっている。	ユニットごとに在庫の食材や差し入れの野菜などを活用して、利用者の好みに反映できるよう献立を作成している。誕生日は要望を取り入れ、時には出前を頼むなど、食事を楽しめる雰囲気作りにも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の咀嚼や嚥下状態等に合わせて、お粥や刻み、ペーストにする、とろみをつけるなど食事形態を工夫し提供している。その他、減塩や逆に塩分を増やす必要がある方もおり対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で出来る方には歯磨きを促しているが促しだけではなく、確認し不十分な所は介入している。介助が必要な方も同様に口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら、各利用者の排泄パターンの把握に努めている。おむつの使用及び介入が必要な方は殆どであり適切に介入することで少しでも排泄の失敗を減らせるよう取り組んでいる。	排泄は、利用者の状況により時間で誘導、動作から察知してトイレへ、ベッド上での支援など様々だが、いずれも自尊心に配慮して行っている。布下着や衛生用品を活用しながら失敗の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便の有無や間隔を確認している。食物繊維が摂れる食事の提供はもちろん、間隔が空いている場合は、起床時に牛乳を提供したり、下剤を服用してもらい排便につながるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診や行事等の都合により、ある程度入浴日が決まってしまうことはある。中でも可能な限り本人の希望にそって入浴ができるよう支援している。失禁があった場合も随時対応し清潔に努めている。	入浴は、週2回を基本として支援している。利用者の心身の状況によりシャワー浴、清拭、湯船で寛ぐなど多様だが、入浴拒否にも柔軟に対応している。入浴時はコミュニケーションや身体状況を確認できる場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の本人の様子や体調に合わせて自室やホールのソファ等で適度な静養を促している。安楽な姿勢で過ごすことができたり、褥瘡の予防、浮腫の軽減にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の把握に努めている。薬剤師に相談したり、アドバイスを受けながら服薬支援の手順のもと、服薬介助を行い誤薬に繋がらないよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことやできること等を中心に働きかけを行っている。他者とやり方の違いで揉めたり、時には助け合う、褒め合う場面もあり良い刺激になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、気軽に外出できる機会は減ってしまっていたが、その中でも車から降りない形でのドライブは実施しており、少しでも外出できる機会は作っていた。コロナ緩和に伴い、利用者の希望を聞きながら少しずつ行動範囲を広げられるよう取り組んでいきたい。	外出の機会として、敷地内に植えられている八重桜やチューリップを観賞し、近所の花や樹木を眺めながら散歩をしている。テレビのニュースでアザラシの赤ちゃんを観て動物園に行き、また、ドライブで大通公園付近を巡り、中島公園では散策をして外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族とホーム側で管理している。コロナ禍で外出も難しく、利用者にとってはお金に触れる機会はあまりなかったが希望の物や必要な物は職員が代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を持参している方がおり、自分で電話をかけたりしているが時折操作が出来ず困っている際はお手伝いしている。オンラインでのビデオ通話も利用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に寒さに敏感な方が多い為、温湿度計を確認しながら調整を行い、快適に過ごせるよう努めている。また、少しでも季節を感じただけのよう季節に合った壁画制作を利用者で行い飾っている。清潔感を保ちながら、各利用者が居心地よく過ごせるよう努めている。	共用空間は、利用者が寛げるよう生活環境に配慮があり、心地良い居場所作りに努めている。リビングにある共同制作の七夕飾りには、利用者の願いが短冊に書かれている。観葉植物や洗濯物が干してあるなど、家庭的な環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にはソファや椅子を置いている。一人でテレビや新聞を見て過ごす方もいれば、他者や職員と数人で会話を楽しんで過ごす方もおり、一人ひとりが安心して過ごせる場になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みのある物などを持参していただくよう伝えている。生活をしていく中で、身体面などの変化に伴い、居室の配置換えや物品の購入など必要になった場合は本人や家族と相談し対応している。	居室前には表札を掛け、自室としての認識ができています。入居時に使い慣れた物や大事な品を持ち込み、入居前の生活環境になるよう配置している。趣味の塗り絵セットで余暇を楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を活かせるよう各利用者に合わせて声掛けや見守り、必要に応じて環境整備も行っている。		